

乳がん検診

乳がんは、女性のがんの中で最も患者数が多く、40代～50代女性のがん死亡原因の第1位です。

進行すると脇の下のリンパ節や血流によって肺や骨など全身に転移しやすいので、早期発見が重要です。早期に発見できれば乳房温存療法も可能で、高い確率での治癒が期待できます。定期的なセルフチェックに加え、定期的に検診を受診することが大切です。

①マンモグラフィ検査

◆対象者

令和5年4月1日時点で
40歳以上の女性

②エコー検査

◆対象者

令和5年4月1日時点で
30歳～39歳の女性

◆検査方法 乳房のX線検査

◆自己負担額 500円

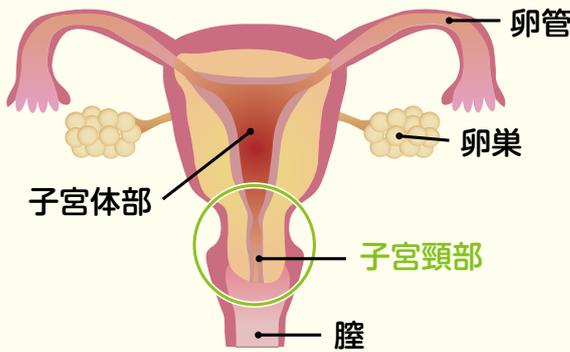
◆検査方法 超音波検査

◆自己負担額 500円

※令和4年度に受診した方には、受診票等を郵送しました。
※40代の方の検査は、マンモグラフィ検査とエコー検査を隔年で実施しています。今年度はマンモグラフィ検査です。



子宮頸がんのできる部位



子宮頸がん検診

子宮頸がんの患者は20代後半から増え、特に30代～40代の妊娠出産を迎える時期と重なる女性の患者が近年増加傾向にあるのが特徴です。

初期の子宮頸がんでは症状がほとんど出ませんが、細胞診という検査を受けることで、がん細胞になる前に発見し治療を行うことができます。早期のうちに治療すれば、子宮を摘出せずに治癒できるため、妊娠出産も可能です。定期的に検診を受け、早期に発見することが大切です。

◆対象者

令和5年4月1日時点で20歳以上の女性のうち、生まれの年号が大正・昭和で偶数年、平成で奇数年の方（西暦は奇数年）※2年に1回の受診です。
※対象者のうち、令和3年度および令和4年度に受診した方には、受診票等を郵送しました。

◆検診方法

医師による診察および子宮頸部細胞診検査（子宮の入り口をブラシで軽くこすって細胞を採取）。

かかる時間は5分程度です。痛みはそれほどありません。

◆自己負担額 500円